

三浦半島東部, 久里浜海岸地域の完新統の層序と¹⁴C年代

蟹江康光*

Stratigraphy and ¹⁴C age of the Holocene deposits in the Kurihama area,
eastern part of the Miura Peninsula, south-central Japan

KANIE Y.*

Approximately 50 m thick Holocene deposits are distributed along the subsurface of the Hirasaku Valley in Kurihama of Yokosuka City in the eastern part of the Miura Peninsula. The Denpukuji-ura Site whose ground surface is ca. 5 m above sea-level is located at the entrance of a branch of the Hirasaku Buried Valley. The remains are buried in a natural shell bed. The bed composed of 4 m thick fine-grained sand is divided into layers, I, II, III and IV, in ascending order. Layer IV is unconformable with the basement and conformable with Layer III. Layer II covers unconformably Layer III which is partly overlain by Layer IV. The remains were collected from Layers III and II. The ¹⁴C age of Layers IV, III and II is approximately 5000 yBP. The Iri deposit is located in the uppermost part of the valley geomorphology. The top of the marine shell bed is at 8 m above sea-level, 3 m higher than the Denpukuji-ura Site. The Iri deposit is composed of granule-bearing shelly fine-grained sand (4.26-8.07 m above sea-level), coarse-grained sand (8.07-8.95 m), granule-bearing peat (8.95-9.34 m) and peat (9.34-10.01 m), in ascending order. The ¹⁴C ages are 7130-4910 yBP for the fine-grained sand, 3600-3420 yBP for the granule-bearing peat, and 2190 yBP for the peat, respectively. The sea-level at the time of ca. 5000 yBP was at 8 m in the Iri area, corresponding to 5.0-3.5 m in the Denpukuji-ura Site.

はじめに

調査地域の概略

三浦半島東部の横須賀市久里浜地域の平作川流域には、厚い完新統が分布する。平作川河口の完新統については、長谷川(1968), 蟹江・石川(1967), 菅沼(1981), 澤ほか(1988)などの報告がある。本報告は、その河口(湾口)に位置する堆積物の層序と年代について論じる。¹⁴C年代の測定用試料の採取は1981年に行われ、年代の測定は、木越邦彦氏(学習院大学理学部)に依頼した。

試料の収集・分析にあたり、横須賀市人文博物館の大塚真弘学芸員と横須賀市教育委員会の野内秀明氏の協力を得た。

調査地域(第1図)は、浦賀水道に面した久里浜湾の南に位置する。調査地点は、伝福寺裏遺跡と入(生活環境処理センター、横須賀市南部処理工場敷地)にあり、完新世の堆積物が分布する。伝福寺裏遺跡は、平作埋積谷支谷の入口にあり、入の自然貝層は谷の奥にある。調査地域の完新統は、平作埋積谷(蟹江・石川, 1967)の支谷の一部を構成している。完新統をのせる基盤岩は、上部中新世三浦層群の逗子累層をつくる泥岩である。調査地域の前者の露頭は市道の建設、後者は横須賀市南部処理工場の建設によって消滅した。

伝福寺裏遺跡の地表面の標高は約5mにあり、遺物は自然貝層中に発見されている(蟹江, 1985)。入自然貝層

* 横須賀市自然博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka 238.

原稿受付 1992年9月18日 横須賀市博物館業績 第435号

キーワード: 完新世, 三浦半島, ¹⁴C年代, 遺跡 Key words: Holocene, Miura Peninsula, ¹⁴C age, site



第1図 調査地域図。地形図は、1984年測量の25,000分の1国土基本図「久里浜IX-MD 87-3」および「千駄ヶ崎IX-MD 97-1」を使用。

は、谷地形の最上流部に存在している。貝層頂部の標高は約8mにあって、遺跡より約3m高い位置にある。

これらの遺跡と貝層の北方数百メートルのところを東西方向に衣笠断層が横切っていると推定されている。しかし、完新世堆積物が厚く地表をおおっているために、断層の詳細な横断位置は不明である。

完新統の層序

伝福寺裏遺跡

本遺跡の概要は、東西方向に最長100m、南北方向に最長20mのトレンチを発掘して得られたものである。第2図はトレンチの位置と東西方向の地質断面図を示したものである。層序的には上部から0, I, II, III, IV層が識別される。I~IV層は後述するように約5000年前の堆積物である。第3図は、グリッドIX地区の南北方向の地層断面である。この断面は、地層はぎ取り標本として横須賀市人文博物館に保存されている。

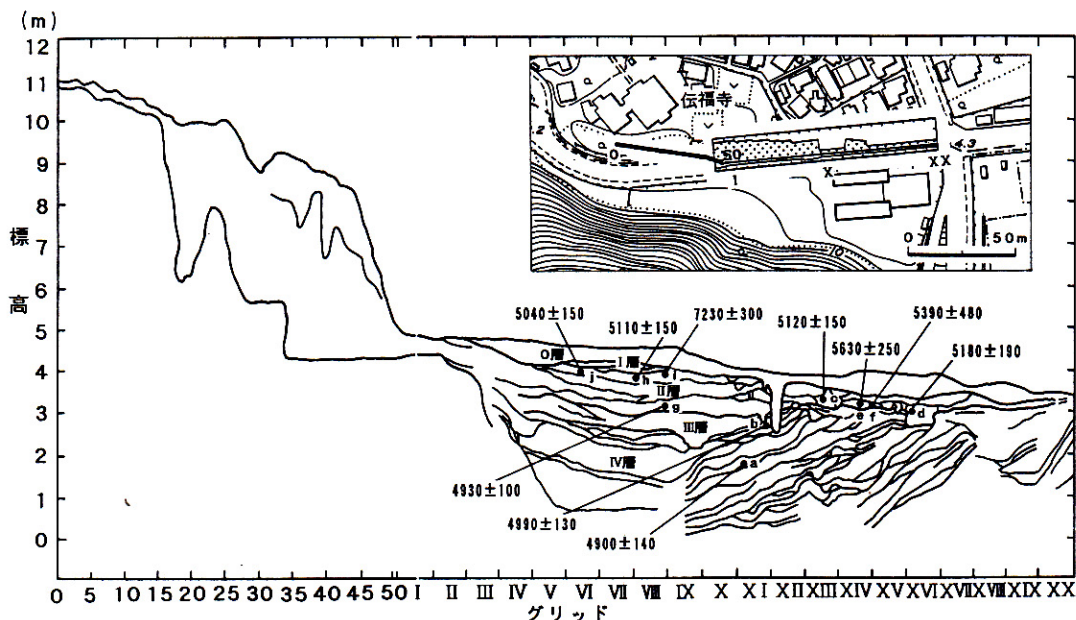
IV層 無層理の細粒砂層であり、風化すれば黄褐色を、新鮮な部分は暗灰色を呈していた。層厚は3m以上あり、東方に薄くなっていた。IV~VI地区では基盤岩に穿孔したニオガイ、カモメガイなどの穿孔貝類化石が

見いだされた。植物遺体は普通に含まれていた。本層の基底部には、グリッド西側の0~50区で基盤上に薄い礫層を伴う顕著な不整合が観察された。上位のIII層に整合状に覆われていた。

III層 層理を有する黄褐色の細粒砂層で、北方にゆるく傾斜していた。炭化した植物遺体層を数枚挟み、層厚は約1mであった。上位のII層とは侵食面をもって接し、本層の最上部には上位のII層から堀りこまれた動物の生痕化石が存在した。独木船の遺物がグリッドXII区から出土した。

II層 全体として細粒砂からなるが、層相変化は大きく、上位からIIa, IIb, IIc, IId, IIeに細分される。IIa~IIcはフィールドワーク時は「第1貝層」と、IIeの一部は「第2貝層」と呼ばれていた。IIeの下部に逗子累層の泥岩からなる巨礫層(集積遺構)が存在して、その周辺に土器片が散在していた。層厚は1~1.5mであった。II層はIII層上に侵食面を有して覆うが、グリッドVI~XX区ではIII層を欠いてIV上層に直接のっていた。

I層 褐色泥層である。分布はグリッドV~VIII区に限られていた。層厚は0.2mであった。下部のII層と上部の0層とは、ともに侵食面で接していた。



第2図 伝福寺裏遺跡のトレンチの位置と地層の東西断面。

0層 埋土。層厚は1 m 以下であった。

入自然貝層地区

標高4.26~8.07 m までの層厚3.81 m の間は細礫まじりの細粒砂で、多量の海生貝化石を含んでいた。途中5.66~5.76 m のところにアカホヤ火山灰層(約6300年前)に同定される火山ガラスが検出された。標高8.07~8.95 m は粗粒砂、8.95~9.34 m は礫まじりのピート、9.34~10.01 m はピートとなっていた。標高10.01 m より上部は表土であった。本地区は、標高4.26 m (深度6.15 m) まで北東-南西方向に掘削された(第4, 5図)が、基盤岩には到達していない。この掘削断面だけでは、それぞれの堆積層相互の層序関係は明らかにできなかった。

なお、伝福寺裏遺跡東端の20 m 東北東に住吉神社自然貝層(松島, 1980; 菅沼, 1981)がある。現地形から陸に近い島の位置にあったと推定される。

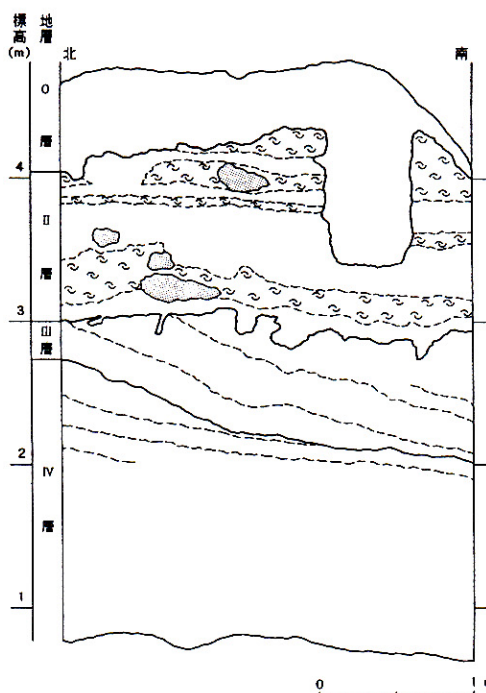
完新統の¹⁴C年代

¹⁴C年代の測定結果を第1表に示す。

伝福寺裏遺跡

試料は、標高2.5~5.0 m のII層とIV層から得られた。試料はGak-11458の両殻貝殻を除いて植物起源の炭化物である。

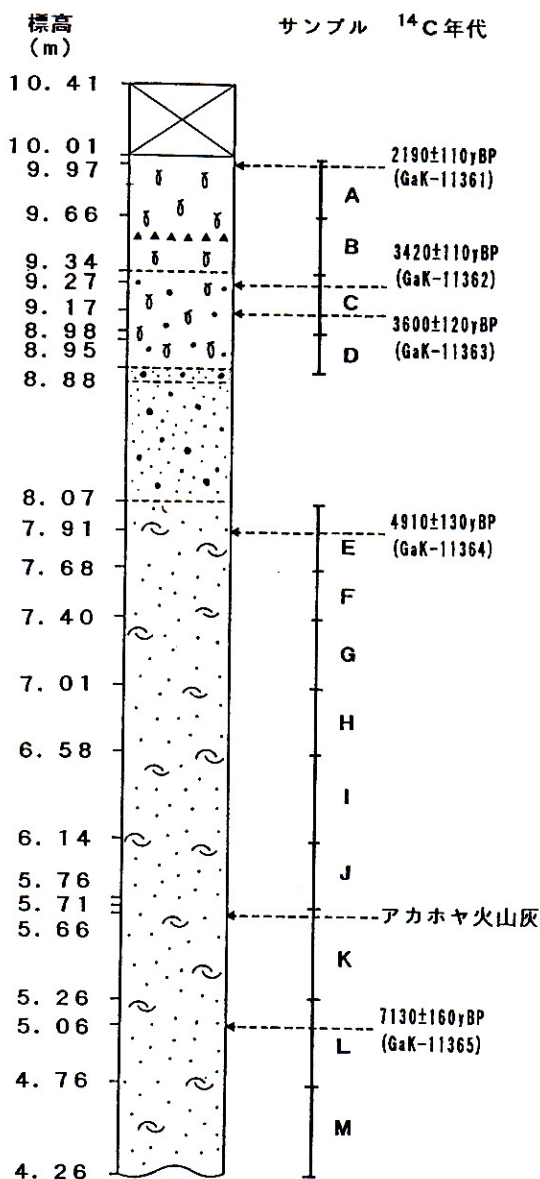
試料採取者: 大塚真弘・野内秀明, 試料採取地点: 神奈川県横須賀市久里浜8-5 伝福寺裏(35°53'30"N,



第3図 伝福寺裏遺跡グリッドIX地区における地層の南北断面。

139°42'55"E)

¹⁴C年代値は、層厚2.5 m の範囲内で、i(Gak-12319)



第4図 入地区における自然貝層の地質柱状図。

の試料をのぞいてすべて5000 yBPを示しており、すみやかな堆積が行われたことを示唆している。この測定値は、野内(1990)の第1表の試料番号22~27と同じものである。

入自然貝層地区

試料は標高5.06m~9.97mの5層準から得られた。2層準から得られたカガミガイの殻は合弁であって、現地性のものであった。

試料採取者：蟹江康光・松島義章，試料採取地点：神

奈川県横須賀市神明町2187横須賀市南部処理工場 (35°53'52"N, 139°42'45"E)

^{14}C 年代値は、層厚4.91mの間で7130~2190 yBPが得られた。

5000 yBP前後の年代値が得られた試料の標高は、入地区で約8mにあり、5000yBP前後の同層準は、伝福寺裏地区の方が3~5.5m低位にあることが判明した。住吉神社の標高6.3mの自然貝層から得られた3680 yBP(菅沼, 1981)とはほぼ同年代の堆積物は、入地区で標高9.2mの3600yBPのピート層がこれに相当し、標高で3.1m高位にある。

まとめ

横須賀市久里浜地域の平作川流域には、厚い完新統が分布し、現在の河口(当時の湾口)に位置する2地域の堆積物の層序と年代を報告した。

1. 伝福寺裏遺跡は、平作埋積谷支谷の入口にあり、遺跡の地表面の標高は約5mにあり、遺物は自然貝層中に発見されている。堆積物は、厚さ4mの細粒砂からなり、埋土を除いて上位からI~IV層に区分される。IV層は西部で基盤を不整合状に覆い、III層に整合状に覆われる。II層は、III層を不整合状に接し、中央地区だけに分布するIV層に整合状に覆われる。考古遺物は、III層とII層から産した

2. 伝福寺裏遺跡のIV~II層の ^{14}C 年代は、どれも約5000 yBPで、すみやかに堆積したことを示している。

3. 入の自然貝層は、谷地形の最上流部に存在している。貝層頂部の標高は約8mにあって、遺跡より約3m高い。

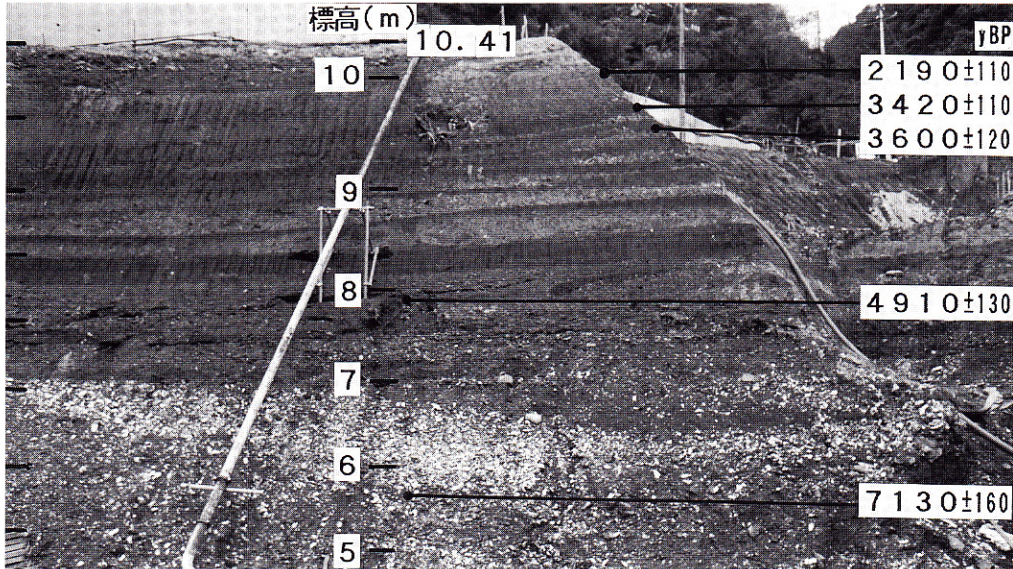
4. 入の堆積物は、下位より層厚4m+の含貝化石礫混じり細粒砂(標高4.26~8.27m)、層厚0.9mの粗粒砂(8.07~8.95m)、層厚0.7mの礫混じりピート(8.95~9.34m)、層厚0.7mのピート(9.34~10.01m)から構成されていた。

5. 入の堆積物の ^{14}C 年代は、細粒砂が7130~4910 yBP、礫混じりピートが3600~3420 yBP、ピートが2190 yBPであった。

6. 5000 yBP前後の年代値が得られた試料の標高は入地区で約8mにあり、伝福寺裏遺跡地区での同層準は3.0~5.5m低位にある。

引用文献

長谷川善和 1968. 横須賀市久里浜湾内の埋積谷とナガス鯨類脊椎骨化石. 横須賀市博研報(自然), (14): 12-19, 図版6.



第5図 入地区における自然貝層の北東-南西断面..

第1表 久里浜海岸地域地下試料の¹⁴C年代測定値.

測定番号 Code-no.	BP年代(yBP) LIBBY year	標高(m) Height	地層 Layer	試料 (学名) Specimen (Scientific name)
伝福寺裏遺跡地区				
j GaK-11457	5040±150	5.0	II	炭化木
i GaK-12319	7230±300	4.9	II	土器炭化物
h GaK-11458	5110±150	4.9	II	ハマグリ <i>Meretrix lusoria</i>
g GaK-11456	4930±100	4.1	II	土器炭化物
f GaK-12322	5390±480	4.0	II	土器炭化物
e GaK-12321	5630±250	4.0	II	土器炭化物
d GaK-11455	5180±190	4.0	II	炭化木
c GaK-12320	5120±150	3.9	II	土器炭化物
b GaK-11454	4990±130	3.6		炭化木
a GaK-11453	4900±140	2.5	IV	土器炭化物
入地区				
GaK-11361	2190±110	9.97		ピート
GaK-11362	3420±110	9.27		ピート
GaK-11363	3600±120	9.17		ピート
GaK-11364	4910±130	7.91		カガミガイ <i>Dosinia japonica</i>
GaK-11365	7130±160	5.06		カガミガイ <i>Dosinia japonica</i>

蟹江康光・石川重幸 1976. 三浦半島, 平作川の沖積層.

横須賀市博研報(自然), (23): 45-59.

蟹江康光 1985. 横須賀の地質. 横須賀文化財シリーズ, (2). 100ページ. 横須賀市教育委員会.

松島義章 1980. 南関東における貝類群集からみた縄文海進と地殻変動. 月刊地球, 2(1): 52-65.

澤 真澄・松島義章・澤 詳 1988. 三浦半島平作川低地の完新世の古地理. 神奈川県 naturally and human - Iwano

三先生退官記念論文集: 9-22.

菅沼 健 1981. 三浦半島・久里浜付近の完新世段丘と¹⁴C年代. 横須賀市博研報(自然), (28): 91-94, 図版22.

野内秀明 1990. 三浦半島における縄文時代の¹⁴C年代測定値について. 横須賀市博研報(人文), (35): 59-71.